

小児科だより vol.110

SDQ(Strength and Difficulties Questionnaire)について

2025.11.4 発行

こんにちは。だんだんと冬の気配を感じるようになってまいりました。当科では、今年も10月中旬よりインフルエンザの予防接種を開始しております。2016年の11月号(小児科だより vol.3)に、『うちの子はインフルエンザのワクチンうったほうが良いですか?』というテーマで書いておりますので、乳幼児にワクチン接種する際の参考にしていただけますと幸いです。なお、当科では今シーズンから経鼻インフルエンザワクチンも取り扱うこととなりました。詳細については、2025年8月号の小児科だより vol.107 もご参照ください。



厚生労働省は、発達障害の早期発見を目的とした健康診査マニュアルの中で、SDQ を行動評価法のスクリーニングとして紹介しています。SDQ は、日本語では『子どもの強さと困難さアンケート』と訳され、4-18 歳の子どもの日常行動を評価し、情緒や行動面の精神症状を把握するためのツールとして英国の Goodman(1997)らによって開発された質問紙です。子どもの困難さのみならず、強みも評価できる点がほかの質問紙調査と異なり、質問項目は『行爲面』『多動衝動性』『情緒面』『仲間関係』『向社会性』の5分野、計25問、保護者や保育者が約5分程度でチェックすることが可能で、子どもの特性が比較的捉えやすいとされています。

実際の活用においては、保護者と保育者の双方が実施することで、子どもの見方に違いがあることが可視化され、その差はどうして起こっているかについて考えることが、潜在化している問題を明らかにするきっかけになるとされています。

2023年11月こども家庭庁はこれまでの乳幼児健診に加えて、新たに1か月児健康診査、5歳児健康診査の費用を自治体に助成し、出産後から就学前までの切れ目のない健康診査の実施体制を整備することとなりました。このなかで、5歳児健診は、こどもの社会性の発達の評価、発達障がいスクリーニング、子育て支援への必要性の評価を目的とすると位置づけられています。

厚生労働省は、2016年に発達障害者支援法が改正されたことを受け、発達障がいの早期発見に関し、顕在化しにくい発達障がい(吃音、チック症、不器用、発達性読み書き障害)について、CLASP(Check List of obscure disAbilitieS in Preschoolers)でのスクリーニングも推奨しております。2020年10月号の小児科だより vol.50 に詳細を書いておりますのでこちらもご参照ください。